

日本遺産に認定された河野北前船主集落の魅力に迫る

なぜ河野で多くの北前船主を輩出したの？



河野浦は敦賀湾の入り口に位置し、古代には越前西街道(馬借街道)を通じて国府と直結する港であったことから、物資輸送の中継地として栄えた集落です。しかし、甲斐城断層に位置するため、地形上田畑の栽培や船溜の余地も無く、敦賀や小浜の船主に雇われる渡海船稼ぎを唯一の業としていました。江戸時代に入ると、近江商人の積み荷を運ぶ「荷所船」の船主となり、やがて近江商人に代わり、松前(蝦夷地)まで自ら商品を仕入れ販売する買積商いをする北前船主として活躍しました。幕末から明治初期にかけては、正に海運を専業とする船主をはじめ船頭や船乗りの居住地集落となりました。

北前船の大きさは？



北前船に使用された弁才船の大きさは、500〜1,000石を超えるものまで色々ありました。右近家のシンボルである八幡丸は、1,357石の大きな船でした。

北前船で運んだものは？



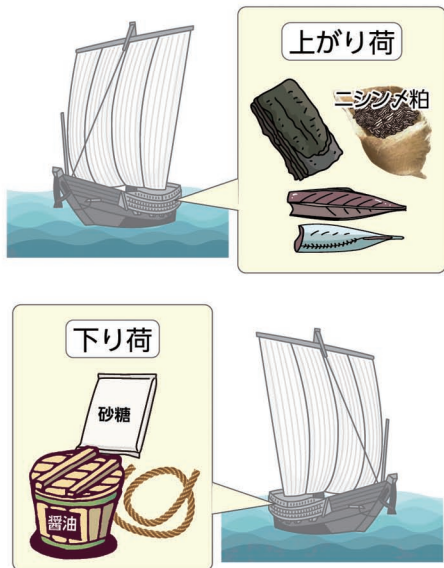
蝦夷地(北海道)から上方(大阪)に向かう「上がり荷」では、北海道産物(ニシン、昆布など)を運びました。中でも、ニシンは、農業肥料として用いられたため、大きな利益を上げました。

一方、北海道に向かう「下り荷」は、生活必需品砂糖、醤油、衣料品、縄などを大阪や各寄港で買い入れながら運びました。また、積み荷の少ない下り航路の船では、笏谷石(福井市)で採掘が、船のバランスを保つために不可欠なものとされ、商品も兼ねて運搬されました。



▲昭和初期の河野浦集落

※北前船は、江戸時代から明治時代にかけて天下の台所大阪と北海道を往来し、その途中の各寄港地で買積商いをしながら日本の荒波を航行した船です。



河野北前船主通りの家並みの特徴は？

断層海岸地形で、家屋が海岸に沿って帯のように連なっています。

潮風を遮るために、山側に主屋を海に向かって構え、村道を挟み、海側には海に向かって開く長屋門を中心に土蔵を連ねています。

海側を表構えとする屋敷構えは、海への畏敬の念が表されています。

北前船主邸の建物の特徴は？

主屋は、切妻造り、棧瓦葺き、漆喰塗り、真壁造り、材料を吟味し、趣向を凝らした座敷、客座敷の縁越しには庭を設置、台所は囲炉裏を切り、農家型の豪壮な構造です。



中村家は、右近家とともに日本海有数の北前船主です。江戸時代には上使宿をつとめた家柄で、現在の邸宅は、明治20年に2階建の主屋が建築され、大正2年には趣向を凝らし繊細な意匠をみせる3階建の新座敷が増築されました。近代和風建築として歴史的価値が認められ、平成27年7月に国の重要文化財に指定されました。

特別公開のご案内
6月18日(日) 午前9時～午後4時

観光まちづくり課
南竹磨 学芸員

右近家は、日本海五大船主に数えられる船主です。江戸中期から明治中期にかけて隆盛を極め、全盛期には八幡丸ほか30隻余りの船を所有していました。以後、北前船の衰退と共にいち早く蒸気船を導入し、近代船主への脱皮に成功。海運の近代化を進める他の北前船主と共に日本海上保険株式会社(現在の損害保険ジャパン日本興亜株式会社の前身)を創立しました。

現在の邸宅は、江戸時代の構えを基本に明治34年に建て替えられました。背後の高台には、昭和の大恐慌で村人に仕事を与える「お助け普請」として建てられた西洋館(国登録有形文化財)と、日本海を展望できる庭園があります。

問合せ ☎ 48-2196 (午前9時～午後4時) 休館日: 毎週水曜日、12月29日～1月3日、有料



河野北前船が始めた「北前船の歴史むらづくり」事業は、右近家当主のご理解のもと生まれた事業で、「北前船主の館右近家の公開を核に、官と学が30年にわたる連携により、観光事業と北前船研究の両面に磨きをかけ、河野の北前船像を築いてきました。河野に残る北前船の歴史を掘り起こすことにより、観光力を高め、そして最新の研究成果を全国に発信したことが、日本遺産の認定に繋がったと考えます。今後ますます、北前船という魅力的な歴史遺産を更に磨き、活用することで、南越前町の魅力度を高め、後世へも継承します。



河野北前船研究会
会長
右近 恵 さん

日本遺産認定によって、注目されるようになり、県外はもとより県内の来場者も増えています。心新たに、今まで以上に勉強し、誇りを持って右近家・中村家をはじめ河野北前船主集落の良さを知ってもらえるように、訪れる方々を案内したいです。



河野北前船主通り
案内の会 会長
千馬 仁視 さん

日本遺産認定を受けての
意気込み・想いをインタビュー

今年のGW期間中の右近家入込数は、千人を超え、過去2年分の同期間中の合計を上回りました。